



埼玉県マスコット「コバトン」

紋枯病対策について

令和2年7月3日
加須農林振興センター
JAほくさい

6月が高温で推移したため、紋枯病の発生が見られます。紋枯病が多発すると減収や品質の低下を引き起こします。前年の被害株の稲わらや雑草が、感染源となり病気が広がるため、昨年、多発したり、稲わらが流れ込んだ水田は特に注意し、適切な防除を実施しましょう。

1 被害の特徴

- ・水ぎわの葉鞘に中心部が**灰色の楕円系の病斑**ができ、上位葉に感染が広がる。
- ・**病斑が止葉まで達すると約10～20%減収、品質も低下。**
- ・激しくなると茎葉が枯死し、**倒伏しやすくなる。**
- ・作期や品種の成熟期が早いほど被害が大きくなる傾向。



写真 紋枯病被害株

2 伝染経路

- (1) 前年の被害株に形成された菌核が落下、土壤中越冬する。
- (2) 代かき時に水面を植物残渣とともに浮遊し、移植した稲に付着・感染する。
- (3) 菌糸が葉鞘から内側に侵入し、病斑を形成する。

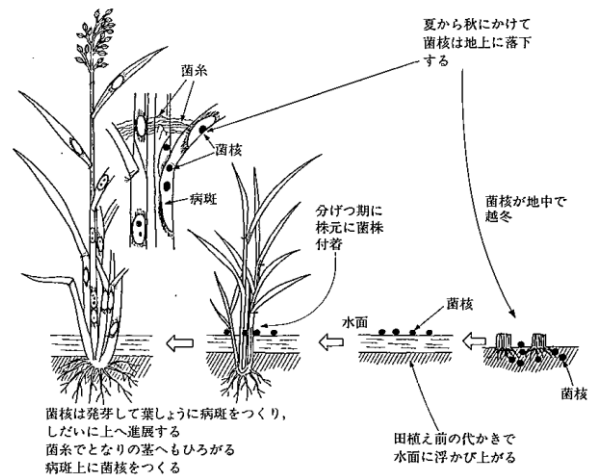


図 イネ紋枯病の伝染経路
「出典 大畑貫一/著 稲の病害-診断・生態・防除-」

3 多発条件

- (1) 窒素過多や密植による過繁茂
- (2) 高温(28～32℃)、多雨
- (3) 前年多発したほ場や稲わらが流入したほ場(特にわらが寄りやすい排水口側)
- (4) 短稈、分げつが多くなりやすい品種(彩のきずな等は注意が必要です)

4 防除

発生状況に基づいた薬剤防除が基本です！！

- (1) 多肥、密植を避ける
- (2) 代かき時の浮遊残さの除去
- (3) 薬剤防除 【防除目安】 幼穂形成期～穂ばらみ期に田んぼ内の連続20株を調査し、**病斑が見られる株を3株以上発見したら防除する。**

【散布適期】 粒剤：出穂3～2週間前

液剤などの散布剤：穂ばらみ期～出穂期

毎年発生する場合、箱施用剤の使用も有効です。

表 使用農薬(例)

薬剤名	使用量・希釈倍率	使用時期	使用回数	使用方法
モンガリット粒剤	3～4kg/10a	収穫45日前まで	2回以内	湛水散布
モンカト乳剤	1000～1500倍	収穫14日前まで	3回以内	散布
モンレソフロアブル	1500倍	収穫21日前まで	4回以内	散布

○農薬使用の際は、ラベル表示(使用基準)を必ず確認してから使用しましょう。○農薬の飛散防止に努めましょう。

○令和2年6月30日現在の登録内容で作成しています。○農薬の使用記録簿をつけるよう努めましょう。